

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 柳田義継

作成日 2020年3月26日

【責任】

経営情報学科に所属し、おもに IT に関する授業を担当している。担当科目は「インターネットビジネス/ネットワークとコミュニケーション 1・2」「経営情報学 1・2」「電子商取引の実際」「経営と IT の実際」「中小企業経営者研究」「ゼミナール 1～6」である。

【理念】

私の掲げる理念は、「IT の視点から世の中を俯瞰できる能力を身に付けて欲しい」「多様な人々との協働力を身に付けて欲しい」の 2 点である。

第 1 の理念は、IT の最新動向を把握し、IT 社会において世の中の半歩先がどうなっているかを見通し、今の社会の問題に IT の視点からどのように解決できるかを考えることができるようになる、という点である。

第 2 の理念は、他者とともに生き、社会人として社会で活躍するために、多様なメンバーと効果的に協働できるようになる、という点である。

背景として、現在の企業経営において従来のビジネスモデルを IT やテクノロジーでアップデートする流れがあり、そのためには IT 活用能力が重要であり、世の中の様々な課題と解決策を IT の視点から捉え直すことがますます重要となっている点が挙げられる。

【方針・方法】

上記の理念を実現するための方針は、「IT を活用して自分で課題解決する能力を身に付ける」「様々な IT ツールを自分の目的に合わせて使いこなす」「多様なメンバーとコミュニケーションする」の 3 点である。

(1) 「IT を活用して自分で課題解決する能力を養う」

今日のビジネスにおいて様々な課題を解決するためには、IT の視点が重要になる。そのため、様々な事例を知り、具体的なサービスを使いこなす、どのような課題があるかを把握し、IT を活用してどのように解決できるかを考えるような能力が求められる。そのために、下記のような方法で、課題解決能力を育成する。

- 事前に事例を調べさせる。例えば、各回の授業のテーマに関連する具体的なサービスについて調べる事前課題を提示し、サービスの概要を Web サイトで自分で調べたり、アプリをインストールさせて自分で使ってみる課題を設けている。
- 様々な事例を紹介し、最新動向を把握させている。例えば、各回の授業のテーマに関連する事例を授業資料に盛り込むとともに、事例についての Web サイトのリンク集を用意し、事例の詳細を実際に見せながら説明している。
- 具体的なサービスに触れさせ、最新サービスを把握させている。例えば、各回の授業のテーマに関連するサービスを授業資料に盛り込むとともに、サービスのアプリをイ

インストールさせて実際に触れさせたり、サービスの Web サイトにアクセスしてサービスを体験させている。

- 各回の授業で自分の意見を入れた課題を提出させる。例えば、各回の授業の内容をもとに複数の事例を比較させたり、サービスの利点や欠点を指摘するような課題を作成させている。
- 実習としてアンケートを回答させ、考察させる。例えば、授業冒頭に Google フォームでテーマに関連するアンケートに回答するとともに、他の受講生の回答を確認しながら現状を考察させる時間を設け、当日の授業課題の中に考察の内容を盛り込んでいる。
- 学生の優秀な作品・レポートを紹介して目標を明確にする。例えば、作品・レポートを作成する前に、前年度受講生の優秀な作品・レポートを紹介し、どこが優れているのか・どのような工夫をしているのかを実際に見せながら説明することで、具体的な完成像をイメージさせた上で作品・レポートを作成させている。

(2) 「様々な IT ツールを自分の目的に合わせて使いこなす」

IT の環境は日々変化しており、常に最新の IT ツールがリリースされている。IT ツールを効果的に活用するためには、日常的に様々な IT ツールを知り、日々 IT ツールに慣れ親しむ習慣を身につけるとともに、どのような状況においてどの IT ツールが有用であるかといった判断力も求められる。そのために、下記のような方法で、IT ツール活用能力を育成する。

- 様々な IT ツールを紹介し活用させる。例えば、各回の授業のテーマに役立つような IT ツールを紹介し、実際に活用しながらその有効性を実感させている。
- Google クラウドサービスやオンラインストレージなどのクラウドサービスを利用する。例えば、授業資料・リンク・当日の課題など必要な資料を Google クラウドサービスにアップして参照させることによって日常的に Web 上の資料を活用する感覚を養ったり、Google ドライブなどのオンラインストレージに必要なファイルを置いたり複数のメンバーとファイル共有することによってクラウド活用の有用性を理解させている。

(3) 「多様なメンバーとコミュニケーションする」

多様性の時代において、企業には多様な価値観を持つ人々が集まっている。業務を適切に遂行するためには複数のメンバーとの協働が必要であり、多様な背景を持つメンバーと向き合い、互いの価値観や違いを尊重しながら適切にコミュニケーションを行う能力が求められる。そのために、下記のような方法で、コミュニケーション能力を育成する。

- グループワークを積極的に実施する。例えば、ゼミの研究テーマを複数挙げ、どのテーマに興味があるか希望を聞き、同じテーマに興味を持つメンバーどうしでグループになり、多様なキャラクターを持つメンバーと協力しながら研究を進めさせている。
- プレゼンテーションを積極的に実施する。例えば、研究テーマについて具体的にどのような内容を重点的に研究するかのプランを立ててプレゼンテーションしたり、研究

成果のプレゼンテーションを同学年を対象に実施するとともに下の学年も対象に実施することによって、対象ごとにプレゼンテーションのしかたを工夫させている。

- フィールドワークを積極的に実施する。例えば、地域の魅力を Web サイトや SNS で情報発信するフィールドワークについて対象場所や情報発信内容などのプランを議論しながら調整させるとともに、フィールドワーク当日の進行をメンバーが主体的に行い、結果について役割分担しながら Web サイト・SNS で情報発信させている。

【評価・成果】

- フィールドワークの実施について、2 年次でのフィールドワークのしかたと比べて、3 年次でのフィールドワークのしかたのレベルが上がっている（フィールドワークプラン・実施報告プレゼンテーション資料をもとに評価）。
- Web サイトや SNS での情報発信について、2 年次での情報発信の内容と比べて、3 年次での情報発信の内容のレベルが上がっている（情報発信用 Web サイト・SNS の投稿内容をもとに評価）。
- プレゼンテーションについて、2 年次でのプレゼンテーションのしかたや内容と比べて、3 年次でのプレゼンテーションのしかたや内容のレベルが上がっている（2 年次プレゼンテーションと 3 年次プレゼンテーションの比較により評価）。

【目標】

- 授業の目標を分かりやすく伝えるために、授業目標をルーズリックで明示することによって、授業の目標をわかりやすく伝えるように工夫する。
- 課題内容の適切な評価と、課題作成能力の向上の適切な評価をするために、評価のしかたをルーズリックで定量化して比較できるようにする。
- IT ツールの活用能力向上の適切な評価をするために、事前・事後アンケートを取り、比較できるようにする。
- プレゼンテーション能力向上の適切な評価をするために、プレゼンテーション資料内容の評価だけでなく、プレゼンテーション相互評価や外部審査員による評価を導入する。
- 上記のようにそれぞれの能力を可視化することによって、前述の方針で掲げた「IT を活用して自分で課題解決する能力を身に付ける」「様々な IT ツールを自分の目的に合わせて使いこなす」「多様なメンバーとコミュニケーションする」のそれぞれについてどの程度達成できているかを自ら振り返ることのできる仕組みを整える。